



めあてと展開がつながっていますか？

めあては、本時の Goal を指しているわけなので、その Goal にたどり着くための道筋になるのが、授業における展開内容だといえるでしょう。めあてに「～～について考えよう」としたとき、評価の観点はもちろん「思考」力をつける授業をめざしていることとなります。ということは、授業の中で子供が「思考」する場面が絶対必要で、淡々と知識伝達の授業をしても「思考」力がつくとは言えません。結局、「めあて」はそのあとの授業展開を左右しているんだということです。

では、実際に「めあて」と授業展開の進む方向性が合致しているのかどうかを見極めるにはどうすればいいのでしょうか？まず、1時間の授業構成を考える手順はどうしていますか？次の手順で授業を考えていくと、1本筋の通った授業にすることができるでしょう。

①本時の目標を考える

② → 目標に沿った展開の内容や方法を考える

③ → 評価の観点に沿った具体的なめあてを設定する

④ → 評価の具体的な方法を決める

①～③までは、日頃の授業づくりを振り返ってみると想像ができますよね。①本時の教科書の内容を見て、「この内容だったら子どもたちにこんな力（思考力や理解力など）をつけてやろう」と目標を設定します。②その目標を達成するためには、「本時ではどんな活動をしようかな？」とグループ活動や発表場面など、必要な学習方法や内容を考えます。そして、③「こんな学習活動をすれば、子供たちにこんな力がつけられるだろう」と本時の Goal であるめあてを設定します。ここまですれば、授業は筋の通ったものになっているはずですが、最後に④「評価の具体的な方法」を考えてください。指導内容が正しかったかどうかを確認するのが評価です。だから、「指導と評価の一体化」になるのです。よって、指導内容が正しかったかどうかを測る評価方法を具体的に決め、適正な評価ができるかどうかを検討する必要があります。具体的な評価方法には、例えば、ノート記述（ワークシートの記述）、行動観察、発表の様子、適応題の回答結果、振り返りの内容などがあり、評価の観点（めあての内容）によって、選択される評価方法や評価する内容が変わってきます。すなわち、めあてと学習展開の筋が通っていれば、評価結果として高評価を得ることができるということです。逆に言うと、評価結果が悪ければ、それは子供たちが悪いのではなく、教師の指導が間違っていたということになるのです。